科目名 成人看護学実習 I配当時期 3年次講義担当者時間割表記名 成人看護学実習 I単位数 2単位 佐々木 主一時間数 90時間 (12日間)

事前学習内容

実習要項参照

科目全体のねらい・授業目標

実習目的

成人期にある患者及び家族を総合的に理解し、発達段階および健康の段階に応じた看護を実践できる能力を習得する。

実習目標

- 1. 生命の危機的状態にある患者の経過および予測される問題を理解できる。
- 2. 生命の危機的状態にある患者および家族の精神的・社会的特徴を理解できる。
- 3. 患者・家族の置かれている状況に応じた援助が実践できる。
- 4. 生命の危機的状態にある患者の早期回復に向けた援助が実施できる。
- 5. 生命の危機的状態にある患者の生活を整えるための援助を実施できる。
- 6. 継続看護の必要性を理解し、他部門・チーム間との連携について理解できる。
- 7. 保健・医療チームの一員としての自覚をもち、専門職業人として望ましい態度がとれる。

教育目標との関連

- 1. 看護の対象である人間を身体的·精神的·社会的に統合された生活者として理解する。
- 2. 人々が生活するうえでの健康の意味を、環境との相互作用の観点から理解する。
- 3. 対象の生活をよりよくするために、科学的根拠に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。
- 4. 人々の多様な価値観を尊重し、専門職業人として倫理観に基づいた看護を実践できる能力を養う。
- 5. 保健医療福祉制度とそれに関わる職種の役割を理解し、チーム医療を実践するための基礎的能力を養う。

授業の流れ

本実習は、症状が不安定で生命の危機的状況にある成人期の患者に、身体の侵襲によって生じた生体反応を捉え、生命を維持するための援助を学ぶこと、さらにそのような状態にある患者をとりまく家族やチームでの関わりについて理解する。また、発達段階に応じた患者の理解を基に、生体反応や生命に及ぼす顕在的・潜在的健康問題の理解に努め、身体機能の安定化や合併症の予防、身体的・心理的苦痛の緩和、そして家族の抱える問題について理解する。

さらに、生命の危機的状態に対応した看護では、その状況で起こっている問題が不確実で特定できない場合が 多い。そこで、限られた情報をもとに、変化を捉える観察力、短時間での状況判断、曖昧な状況から問題を特定し ていく臨床推論について理解していく。

以上を救命救急センター、またはICU、救急外来で学ぶ。速やかな医療処置と濃厚な看護ケアが必要な患者とその家族の反応や問題を捉えながら、クリティカルケア看護について学習する。

評価

ルーブリックに沿って評価する。

使用するテキスト

- ①急性期看護:クリティカルケア メデカルフレンド社
- ②系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
- ③系統看護学講座 基礎看護学 臨床看護総論 医学書院
- 他 受持ち患者に合わせて既習のテキストを活用する